

ハミングロードに憩いの場 習志野ロータリークラブ 陶製テーブルとイスを寄贈



習志野ロータリークラブのメンバーほか(寄附受納と感謝状贈呈式で)

習志野ロータリークラブは5月26日、ハミングロードにある鷺沼台2丁目の「ハミングパーク」に、陶製のテーブルとベンチを寄贈した。

テーブルなどが設置されたハミングパークは、約12kmに及ぶハミングロードの中間付近にある。ウォーキングやジョギングをする人たちが、休憩や体操をする場所として利用し、懸垂ができる器具などが設置されている。

習志野ロータリークラブでは、コロナ禍にあって、地域の人たちの健康増進に

役立ててもらいたいと企画した。社会奉仕などを行い、ロータリークラブの日々の活動を知らせてもらう「ロータリーデー」の一環として贈られ、野外でも木製より腐りにくい陶製が選ばれた。

寄贈に当たり、習志野市では寄附受納と感謝状贈呈式を催し、習志野ロータリークラブからは相原和幸会長、弓削田邦夫幹事のほかメンバーが集まった。相原会長は「社会奉仕事業の一環として、ハミングロード

の馴染める場所として、たくさんの人に利用してもらいたいという思いで、習志野市に提供しました。マラソンやウォーキングの人たち、子どもたち、家族でお弁当を食べるなど長く利用してもらいたい。今後様々な事業を展開し、社会奉仕活動に努めていきたい」と挨拶した。

宮本市長は善意の寄附に対して感謝状を贈呈し、「卓を囲んで談笑できる場もなく、要望もありました。市民まつりなどいろいろな事業が再開されますが、習志野ロータリークラブには地域の絆、仲間同士の絆を再構築して、新たに

まちづくりに寄与してもらいたい」と述べた。

習志野ロータリークラブでは平成28(2016)年には障害福祉サービス事業所「花の実園」の利用者が製作に携わった木製ベンチ10台を谷津干潟自然観察センターに寄贈。平成30(2018)年には群馬県上野村の森林組合から調達した杉材を使った花の実園製のピクニックテーブル(テーブル付きベンチ)2台を習志野市役所に寄贈している。いずれのベンチやテーブルも市民の憩いの場となっている。



海沿いを走る親子マラソンの参加者



仲間であすきをつないで



ゴールに向かって元気に歩を進める



かめさんチームはのんびりとマイペースで

ならしのスマイルラン

親子であすきをつないで

第6回「ならしのスマイルラン」が5月29日、茜浜緑地公園で開催された。

3年ぶりとなるランニングイベントには、親子マラソンに参加する緑ゼッケンの未就学児をはじめ、親子リレーマラソン、リレーマラソン、ソロマラソンの出

場選手約450人が集まった。

ならしのスマイルランは、海が見える習志野市の絶景スポットであり、ランニングコースの茜浜緑地公園で「スポーツイベントができたらいいなあ」という思いから生まれた。主催し

た一般社団法人オービックシーガルス習志野スポーツクラブを代表してアスリートの小池賢さんは「天気も良くみんなできょう一日がなあってほしい」と挨拶した。

晴天に恵まれ、「RUN FOR SMILE」の下、子どもたちは海沿いのコースを一生懸命走り、親子であすきをつないで姿が見られた。

歩け歩け大会3年ぶりに

海を見ながら元気に歩む!

習志野市スポーツ奨励大会「第41回オール習志野歩け歩け大会」が6月5日に開かれた。

3年ぶりに開かれた歩け歩け大会は、茜浜緑地公園を進み、「関東の富士見百景の碑」で折り返すコースと、その後、海浜公園、習

志野市クリーンセンター、津田沼浄化センター、海浜公園を回るコースが設けられた。

主催した習志野市スポーツ推進委員連絡協議会の廣瀬博会長は「これまでとは違うコースですが、信号待ちもなく、密になることも

ありません。例年とは違う景色を楽しんで下さい」と挨拶した。

参加者は自分のペースに合わせて、うさぎさんチームとかめさんチームにわかれ、「東経140度線通過の記念碑」前、しおかせ橋、浦安方面を遠望できる西端岸に着いた参加者は「海が見られて気分がよかった」と話していた。

大人も子どもも楽しめる

ラグビーの魅力を教える

習志野ラグビーフットボールクラブ

ラグビーの入り口だと理解してもらいたい。親子ですべてでき、保護者もサポートコーチで入ってもらうなど、家族で有意義な時間が過ごせます」とラグビーの魅力を話す。

県内には浦安、市原、鴨川、我孫子、白井など各地にチームがあり、全国大会の「サントリーカップ」に向けた県大会、中関東大会もある。大会に出場できるのは4年生以上。夏以降に「全国大会を目指したい」かの意志を確認し、大会に向けた練習も行う。一方でいろいろな個性の子どもたちが集まり、楽しくラグビーを経験することで、「自分たちで考え一つのチームを作り上げて欲しい」というのが基本的な考えだ。

練習では、判断力やコミュニケーションが必要となるチームプレーを考えた方法、高学年と低学年にわかれている練習のほか、学年を越えた縦割りのチームでの練習も行われる。

小林さんは「ラグビーは子どもたちにとって危険だと思われていますが、ラグビーは誰でもできる

代表の小林宏之さんは「大人も子どもも同じレベルで試合ができ、タックルもスクラムもなく、初心者でもすぐに取組めます。まず、子どもたちにとって楽しいことが大事。楽しく終わって来週もまた来たいと言ってもらいたい」と語る。

習志野ラグビーフットボールに関する問合せはEメール narashinotag rugby@yahoo.co.jp。タグラグビー全般についての情報はホームページ「タグラグビーオフィシャルウェブサイト・日本ラグビーフットボール協会」<https://www.tagrugby-japan.jp/>。



楽しくタグラグビーの練習に取り組む子どもたち